

令和8年度第1回佐倉市文化財審議会会議報告（要録）

日時：令和8年6月29日（月曜日）14時00分～15時40分

場所：佐倉市役所 1号館6階農業委員会会議室

○出席者

委員長	遠山成一
委員	野尻孝明
委員	高橋龍三郎
委員	外山信司
委員	原正利
委員	是澤博昭
委員	津田徹英
委員	小林裕美

○欠席者

副委員長	高見澤美紀
------	-------

○事務局

佐倉市魅力推進部文化課

○傍聴者

なし

1 開会

○委嘱状交付

2 議事

（1）委員長・副委員長の選出

委員長に遠山委員、副委員長に高見澤委員を選出した。

（2）会議の公開について

従前のおおり、本審議会の会議は個人情報等を扱わない限り原則公開とし、会議録は要録の作成ですることについて、承認された。

(3) 報告事項

①佐倉市文化財保存活用地域計画の進捗及び評価について

(令和 7 年度事業報告)

○委員長

質疑やご質問がありましたらをお願いいたします。

○C 委員

3 館の来館者数について、令和 6 年が例年に比べて入館者数が多い理由は何でしょうか。

○事務局

令和 6 年度はテレビ番組等で取り上げていただく機会が多く、(特に武家屋敷は) 増えたと思われます。一方、令和 7 年度はハイシーズンである 10 月の週末の天気が悪かったため、入館者数が落ち込んだと分析しております。

○委員長

ふるさとまちづくり応援寄付について、令和 7 年度は非常に件数も額も増えていますが、寄付者の内訳について市内か市外かどうかは分かれますか。

○事務局

こちらはふるさと納税による寄付になりますので、全員市外の方になります。寄付が伸びた要因としましては、寄付の名前が分かりやすくなったので、選ばれやすくなったのではないかと分析しております。

○C 委員

資料の 7 ページ記載の古民家レストラン「むぎとろ 寿るがや」の記事を持ってきました。ぜひ行ってみたいと思っております。

○事務局

夜タイムも営業する予定だと(記事に) 記載されておりますが、開店当初から昼はお客さんが多く、夜営業が追い付かないという嬉しい悲鳴があったと聞いております。6 月くらいから夜営業され始めて、大変好評いただいているレストランです。

○委員長

繁盛してくれば(新町地区に) 人が集まるのではないかなと思っております。

○C 委員

佐倉市内美術工芸品把握調査について、かなり成果が出てきているので継続していただきたいです。

○F 委員

なかなか面白い調査だと思います。あとは全体を把握できるような調査報告書が欲しいですね。

②令和 8 年度 文化財関係の主な事業について

○委員長

事務局から説明をお願いします。

○事務局

佐倉・長崎関連企画展について。佐倉・長崎の交流・歴史的な関係、魅力について深く知る機会を提供するため、幕末・明治の医学史、佐倉・長崎・オランダ、順天堂をめぐる資料等の企画展示を実施いたします。会場は佐倉市立美術館、期間は 2027 年 1 月 23 日（土）から 3 月 22 日（月・祝）までを予定しております。入館は無料です。

内容は、章立てで記載のとおり、佐倉と長崎の蘭医学、特に順天堂 2 代目の佐藤尚中、松本良順、ポンペの 3 人の関係を巡っていく展示を行います。今後は 7 月の月上旬に長崎に行き借用する資料の確認調査を行い、8 月には借用資料の確定、運搬業務、図録作成や誌面広告等の契約準備を進めてまいります。秋に図録の編集、展示レイアウトを作成し、年内には資料を借用して展示作業をし、企画展を行います。

○事務局

「北総四都市メタバース」日本遺産を活用した日本初メタバース・e スポーツツーリズム事業について。こちらは佐倉市、成田市、香取市、銚子市の北総四都市を舞台に街並みを再現したメタバース空間での体験を通じて、若年層の新たな観光需要を創出し、地域経済の活性化に貢献することを目的としています。令和 6 年度に株式会社 GamingV（佐倉市）より事業提案があり、昨年千葉県観光コンテンツ高付加価値化促進事業に応募し採択されました。今年 6 月 12 日に正式にリリースされ、日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会と株式会社 GamingV との間で連携協定を結びました。

ターゲットは Z 世代といわれる若者に焦点を当てています。歴史文化に関わ

るコンテンツ、若い世代が参加してみたいと思うものが不足していると思われるため、若い世代に人気のあるゲーム「Fortnite（フォートナイト）」をプラットフォームとして活用し、ゲームや e スポーツという若者に身近な入口から興味を喚起するものとなっています。

メタバースで文化財を再現する場合、バーチャル空間で完結してしまうものが多く、リアルとの関係が希薄という課題もあるため、リアルとバーチャルを繋いで誘客を促す仕組みを考えております。例えば、現地を訪れることで、ゲーム内の限定アイテムがもらえる仕組みやゲームクリアでクーポンがもらえる仕組みなどを実装し、各地への周遊を促します。

また、小中学生を対象としたクリエイター体験、ゲーム内に登場するアイテムを作る体験会も実施し、地域への愛着やデジタル教育の機会を創出するという狙いもあります。

～北総四都市メタバースのプロモーション映像視聴・解説～

○事務局

今後 7 月 19 日に志津コミュニティセンターにてこの北総四都市メタバースを種目として e スポーツの大会のイベントを行います。また秋には、ツーリズムエキスポや日本遺産フェスティバルなど、関係するイベントに出展して、PR を行ってまいります。そして、幅広い層に佐倉市城下町、日本遺産の魅力を発信していきたいと考えております。

○事務局

佐倉市内寺院美術工芸品把握調査について。6 月 2 日に千手院（井野・真言宗）、6 月 23 日 昌柏寺（本町・日蓮宗）に伺い、調査を行いました。千手院の方では普段公開されていない本尊と千手観音菩薩坐像を拝見しました。

～写真を投影しながら説明～

60 年に一度の秘仏公開の際（前は平成 30 年）に公開されております。その時は厨子に入っていましたが、今回は特別に出して写真撮影や調査をさせていただきました。おそらく南北朝期の作例ではないかといった形で調査記録をまとめていると思います。

また、幕末明治の地元仏師の木村光山や杉山林哲の修理銘のある像数を数点確認しております。

6 月 23 日に行った昌柏寺では、佐倉藩主を務めた松平家の菩提寺にもなっており、松平家に関わる美術工芸品を確認いたしました。

～写真を投影しながら説明～

昌柏院が水野家の出になっていまして、その水野家の沢瀉紋が入った膳椀が一揃い残っています。非常に保存状態が良く、傷みも無いように見受けられます。

こちらは、同じく葵の紋が入っている五条袈裟です。袈裟の箱には、後から書かれたものだと思いますが、四代将軍家綱公から賜ったというような記載があります。この昌柏院が家綱の養母を務めたという伝承が寺の方に残っています。

こちらは水野家の沢瀉紋が入った膳椀がこちらになります。このまま美術館等で展示できるくらい状態が良かったです。こちらの箱は後から誂えたものなので箱書き等はありませんでした。

本堂には一対の釣灯籠があり、享保 17 年に松平乗邑（寺を開いた松平乗久の孫にあたる）も後の時代に佐倉藩主を務めており、彼が寄進したという銘が残っている釣灯籠が一対残っています。そのままお寺にぶら下がっているという状態になっております。

また、涅槃図も残っておりまして、絹本の涅槃図になっており、非常に状態が良かったです。表装の方は一部剥がれている部分はありますが、本紙の絵は綺麗に残っておりました。こちらも元禄十年頃に奉納されたという由緒がこの裏に貼られていました。

また、日蓮上人の坐像もありましたが、お寺の開基（寛文年間）に近い年代の制作ではないかと考えられます。今年は昌柏寺での調査を重点的に行う形で考えております。今年は予想以上に昌柏寺のものが多く出てきたことや釣灯籠、漆の膳椀、涅槃図等色んなジャンルにまたがるということもあり、数回に分けて重点的に調査を行いたいと考えております。私からは以上です。

○委員長

ありがとうございました。

○事務局

GIS（地理情報システム）の構築についてご説明します。

埋蔵文化財包蔵地につきまして今までは紙の分布地図を取扱っていましたが、今後は位置情報や届け出の履歴をシステムで把握していこうという動きになっております。これにより、地図上で一元管理でき、埋蔵文化財に関わる保護の手続きが効率化、迅速化することができるようになります。今まで紙ファイルを複数管理して履歴を確認していましたが、パソコンで管理できる形にしていきたいと思っています。スケジュールとしましては、令和 8 年度中にデータの整備構築を行い、令和 9 年度から GIS システムを運用する予定になっております。

以上です。

○委員長

ご質問やご意見があればお願いいたします。

○A 委員

(GISについて) 佐倉市の問題だけでなく、どこの自治体でも共通することだと思うのですが、どのように構築するのでしょうか。

○事務局

文化課の方で構築と言いましたが、元々ある都市計画図を利用し構築しております。

○委員長

遺跡の範囲についてはどのように判断されるのですか。

○事務局

住所からこの遺跡は履歴が無い、履歴があった場合は過去にどのようなものが発掘されたかを把握できるようにします。

○C 委員

(佐倉・長崎関連企画展について) 地元の資料の再検討、再発見に繋がるようなことは考えていますか。

○事務局

歴博に寄託している佐倉順天堂佐藤家資料の中から、展示資料を選定したいと考えています。市史編さん委員で神田外語大学名誉教授の松田清先生に確認いただいたポンペの化学書の写本がありましたが、資料の傷みが激しく展示が困難でした。しかし昨年修復を行い、現在は来館者に公開できる状態となっています。そのため、これまで展示できなかった地元ゆかりの貴重な資料を積極的に紹介していきたいと考えています。なお、鹿山文庫については現時点で具体的な動きはありませんが、資料の保存状態を確認しながら、借用依頼を行うかどうかを検討していく予定です。

○E 委員

長崎の資料はどこかの博物館が一貫して持っているのですか。それとも、コレ

クターの方に調査をしていますか。

○事務局

長崎から借用を予定している資料は大きく 2 つあります。1 つは長崎市文化財課所蔵の資料で、ポンペが設立した長崎養生所の発掘調査で出土した埋蔵文化財関係の資料です。発掘では、小学校の体育館跡地から良好な遺構が発見され、その一部は現在「小島養生所跡資料館」として保存・公開されており、同館から資料を借用する予定です。

もう 1 つは、長崎養生所の流れをくむ長崎大学医学部に関する資料で、長崎大学附属図書館が所蔵するポンペの医学書の借用を検討しています。また、長崎大学名誉教授の相川忠臣先生にも協力をいただいております、具体的な内容は今後の調整となりますが、先生所蔵の資料についても借用できる可能性があります。

○B 委員

GIS についてですが、これまで調査をやってきた佐倉市の調査、印旛郡市で行ってきた調査を包括的に管理すると捉えてよろしいのですか。

○事務局

市内で行われた調査ですので、印旛郡市、千葉県 of 調査を全て履歴として含めております。

○B 委員

開発事業において、このようなシステムは手続きの効率化に役立つと考えられます。しかし、単に業務の効率化を目的とするだけでなく、文化財への関心や理解を深めてもらう視点も重要です。そのためには多くのデータを入力・蓄積し、報告書などを PDF 化してホームページ上で公開できる仕組みが望ましいと考えます。費用がかかることは理解していますが、文化財の情報を広く発信し、文化振興につなげていくためには、そのような取り組みを進めていく必要があるのではないかと思います。

○事務局

努力したいと思います。奈文研の方にアップするという流れがありますので、それも含めて検討していきたいと思います。

○B 委員

やる場合は、早めの方が良いと思います。

○A 委員

報告書のお話が出ましたが、公開前提ということですか。

○事務局

今のところ考えてはいません。HP 等そこまでは。やるとしても限られた情報をアップし、すべての内容を上げることはないと思います。

(4) 審議事項

「宝金剛寺金銅製灌頂道具類」指定理由書（案）

○委員長

事務局より説明をお願いします。

○事務局

今回ご審議いただくのが宝金剛寺でお持ちの灌頂道具類です。前回現物をご覧いただいたと思いますが、こちらの宝冠と玉幡、木箱の板がついている幡と小さな玉幡のセットの審議になります。前回の審議の中で一括して指定するのが望ましいとご意見をいただき、その指定の名称をどうするかというところでした。今回は案として「宝金剛寺金銅製灌頂道具類」とさせていただきました。国宝、重要文化財、県指定の文化財等他の事例をみると、金銅製の幡で一番古いのが、東京国立博物館所蔵で法隆寺に献納されたものです。銅灌頂幡として個別に国宝・重文指定されています。

本来、宝金剛寺に一括で灌頂道具が残っているところを鑑みていくと、近いものが「中尊寺金色堂内具」（国宝の金銅製の透かし彫りの幡など）が国宝の指定を受けております。また、重要文化財に指定されているもので高野山の弘法大師に深い関わりがあるとされる龍光院に伝来している灌頂道具（幡、宝冠等を含む）が灌頂道具類として重文の指定を受けています。また、愛知県稲沢市の性海寺では鎌倉時代から江戸時代にかけて制作された灌頂道具があり、灌頂道具、それに続いて細かく、金銅、宝冠、宝冠、団扇、五鈷杵といった名前が続いているという形になっています。今回は所蔵しているお寺の名前が分かるというところと、いずれも金銅製で作られている灌頂道具であるというところを鑑みまして「宝金剛寺金銅製灌頂道具類」という指定名称で提案させていただきました。

○委員長

「宝金剛寺金銅製灌頂道具類」という名称についてご意見ありますか。

○F 委員

市町村が指定する場合は、寺院名を書かずに指定名称を「金銅製灌頂道具類」として、所蔵を宝金剛寺とするのが多いです。特定の寺院を保護しているように見えてしまうためです。

○事務局

あくまで案として提示したもので、特定の寺院を取り上げるという意図はありませんので誤解がないようにするのがよろしいかと思います。

○委員長

ありがとうございます。では、名称は「金銅製灌頂道具類」、所有者を「宝金剛寺」とすることでよろしいでしょうか。他にいかがでしょうか。

○C 委員

6 の指定理由について、「灌頂道具の構成にみる仏具であり」という部分と次の「覚朝の代では氏勝、大名の菩提寺としての役割を果たした」という部分も表現として落ち着かないような気がします。また、その下の「特定のパトロン」というのも。3 つ目は個人的な意見ですが、1 つ目と 2 つ目は表現を変えた方がよろしいのかなと思います。

○F 委員

「灌頂道具の構成にみる仏具であり」の部分は「灌頂の儀式に用いられた金銅製の道具類」にして、「いずれも金銅製の灌頂道具である」を取ってしまえばいいと思います。

○事務局

そうしましたら、修正していただいた内容で指定理由を読み上げさせていただきます。「金銅製灌頂道具類は、佐倉市直弥の宝金剛寺（真言宗豊山派）に伝来した灌頂道具類で、宝冠、玉幡 2 種、幡が残る。これらは、灌頂の儀式に用いられた金銅製の道具類であり、17 世紀から 18 世紀の制作年代をうかがうことができる。」その次の「いずれも金銅製の灌頂道具である。」は削除します。

○F 委員

2回、灌頂道具類と出てくるので、最初のところは「佐倉市直弥の宝金剛寺（真言宗豊山派）に伝来した宝冠、玉幡 2 種、幡が残る。」とした方が良いかと思います。その前に灌頂道具類と言っているのもので、「金銅製灌頂道具類は、佐倉市直弥の宝金剛寺（真言宗豊山派）に伝来した宝冠、玉幡 2 種、幡からなる。これらは、灌頂の儀式に用いられた金銅製の道具類であり、17 世紀から 18 世紀の制作年代をうかがうことができる。」と。

○C 委員

右側のページの「慶長 18 年には下野富田（栃木県栃木市）に転封されている。寛朝の代では氏勝、大名の菩提寺として」というところに違和感があります。

○F 委員

むしろ「岩富藩は」をあたりに持ってきて「慶長 16 年（1611）の氏勝没後、末子養子であった」としてはどうでしょうか。氏勝というのが一文中に何度も出てくるので。また「慶長」が出てくるので「同 18 年」にするのではそうでしょうか。

○事務局

そのあとの「パトロン」はどうしたらよろしいでしょうか。

○委員長

まとめますと「岩富藩は慶長 16 年（1611）の氏勝没後、末期養子であった氏重が継承したが、同 18 年には下野富田（栃木県栃木市）に転封されている。寛朝の代では、大名の菩提寺としての役割を果たした宝金剛寺」とする。あと「特定の檀越」と変更することでよろしいでしょうか。

○F 委員

次のページの「魚々子」というのが一般的に読めないと思うので、ルビがあった方が良くと思います。

○委員長

では、ルビをお願いします。他にご意見はありますか。では、修正いただいたとおり、指定を進めていただければと思います。

3 その他

○委員長

続きましてナンシー・メリー、旧佐倉幼稚園の青い目の人形について事務局から説明をお願いします。

○事務局

（旧佐倉幼稚園の青い目の人形ナンシー・メリーについて）青い目の人形ナンシー・メリーですが、以前の審議会で指定の候補にもあげられていたものです。今から 100 年前、昭和 2 年（1927 年）に国際親善のためにアメリカから日本全国に送られた約 1 万 2 千体の人形のうちの 1 つが、佐倉市に現存しています。当時、佐倉には佐倉小学校と佐倉幼稚園に送られていたことが分かっていますが、現存する「ナンシー・メリー」は佐倉幼稚園に送られたものです。第二次世界大戦時は敵性人形とみなされ、多くが焼かれてしまいましたが、この人形は人目につかないように隠され、棚の隅に 30 数年にわたり置かれていたといえます。

その後、ほかの地域の青い目の人形が展示されているのを目にした佐倉幼稚園の元職員が勤務先にも同様の人形があることを思い出して発見に至ったそうです。「ナンシー・メリー」はホースマン（Horseman）社製のいわゆるコンポジションボールです。青い目の人形は眠り目になる仕掛け、スリーピングアイというのが特徴的ですが、この人形は描き目となっています。衣装は、当時の交流事業にかかわった子どもたちの手によって手作りされたものです。製造後約 100 年を経過したため、各部にひびが入るなど、全体として経年劣化が見られたため、環境の良い保管場所でこれ以上の劣化を防ぐ必要がありました。また、佐倉幼稚園が令和 8 年 3 月末で閉園となるのに伴い、幼稚園と文化課、美術館で協議を行い、人形の保管を佐倉市立美術館に移管し、現在の美術館の収蔵庫に保管されています。

今後は、今年の 11 月に日米人形交流 100 年を記念するシンポジウム・展示等に協力する予定です。主催は日米人形交流記念プロジェクト実行委員会、場所は千葉大学、実施は 11 月中頃の予定です。

ちょうど来年が日米人形交流事業 100 年といった機会にも合わせ、指定に向けて次回の審議会で諮問答申をお願いできればと思います。次回の審議会の際には美術館で実際の人形をご覧いただければと思っております。以上です。

○委員長

ありがとうございます。

○E 委員

ホースマン (Horseman) 社製の人形は、スリーピング・アイではないものの、当時の代表的な人形の一つといえます。この人形は、人形そのものを通じて国際交流を図る目的で活用されました。当時は日米関係が悪化しつつある時代でしたが、子どもたちが日本の年中行事や文化に触れる機会を設けることで相互理解を深めようとしたもので、今日でいう多文化共生や異文化交流の先駆的な取り組みと評価できます。また、当時のオリジナルの状態を保った資料は少なく、大変貴重な存在です。

日米人形交流記念プロジェクト実行委員会では、交流事業100周年を記念し、千葉を皮切りにインディアナ大学や長崎での展示を予定しています。さらに渋沢資料館での展示も決定しており、その最初の展示を千葉で開催するにあたり、佐倉市の職員にも協力をいただいています。

○D 委員

人形の素材は何ですか。

○E 委員

コンポジションドールは、おがくずなどを混ぜた素材を型抜きして作る、1920年代のアメリカで独自に発展した人形です。型を用いるため大量生産が容易で、半年間で約1万2,000体が製作されました。一方、日本では人形が手作業で作られていたため、同じ期間に58体しか製作できず、両国の生産体制の違いが顕著に表れています。

それ以前の人形は主に陶器製で、複数回焼成して人間に近い質感を表現していましたが、より軽量で製作しやすい人形を目指して開発されたのがコンポジションドールでした。大量生産技術の発展を象徴する人形としても位置付けられます。

○F 委員

指定の種類は何でお考えですか。

○事務局

全国各地の同じような青い目の人形、15件程度は確認したのですが、「歴史資料」の分類で指定を受けていることが多いです。

○C 委員

いわゆる答礼人形ということでしょうか。

○E 委員

当時のアメリカでは日本に対する反日感情が高まっていたが、日本へ送られた人形を通じた交流によって人々の感情に変化が生まれました。世論は政治にも影響を与えるため、アメリカ側は友好関係を深めて世論を味方につける目的もあり、人形交流事業を進めました。この交流は、渋沢栄一と駐日アメリカ大使マクベーらの尽力によって実現し、アメリカ側は約 1 万 2,000 体の人形を日本へ贈りました。それに対し日本側は、数ではなく質で日本文化の素晴らしさを伝えようと考え、各州に向けて 58 体の精巧な日本人形を製作して返礼しました。

この人形交流は、日米関係が緊張する時代において、人形を媒介として相互理解と友好を促進しようとした象徴的な国際交流事業であり、日米友好の歴史を物語る貴重な取り組みといえます。

○C 委員

渋沢栄一が有名ですが、徳川家達も。

○E 委員

最初は徳川家達を中心だったのですが、大正天皇の亡くなったばかりなので渋沢栄一に依頼の手紙がきたらしいです。徳川家達がやらないということと、大正天皇が亡くなったばかりであるということで、日本国内でかえって反発があるかもしれないとなり、文部省も外務省も政府は全部手を引いて渋沢とアメリカとの民間交流になったそうです。民間人を中心にする民間交流に代わっていったという。国際交流の中心が政府から民間に移りつつあったので、民間人が中心となり国際親善を盛り上げようとした先進的な事例です。

○C 委員

なかなか奥深いですね。

○F 委員

美術館の収蔵庫に保管するということは美術品が前提となっていると思うのですが、種別は「有形文化財(工芸)」としていいのではないかと思います。

○E 委員

我々人形研究者からすると、山車人形も有形民俗になります。人形は選考基準が厳しく、有形文化財になりにくいです。所沢の山車人形の場合は有形(文化財)

にいただいておりますが、他は民俗（文化財）です。そうするとやはり扱いが違うので。

○F 委員

今後を踏まえて有形文化財の扱いにしておいた方がよろしいかと思います。

○E 委員

有形（文化財）にいただいた方がありがたいなと思います。

○委員長

それでは、本日の議題はこれで終わりたいと思います。

（閉会）